

## バーチャル咬合器を使いこなすための3つの要点

高瀬 直

「バーチャル咬合器って使えないよね」

しばしば耳にするフレーズである。

実際、バーチャル咬合器はまだまだ発展途上であるとの見方が強い。

しかし、その認識は些か誤りである。

意外と周知されていない“バーチャル咬合器のシステム的な欠陥”を補正し、最低限の咬合理論を学べば、バーチャル咬合器は明日からでも臨床応用可能な素晴らしいツールとなる。

口腔内スキャナーを併用したフルデジタル技工においては、クラウン設計時に模型が存在しない場合が多い。

したがって、顎運動再現の為にはバーチャル咬合器の活用が必須となる。

そこで今回は CAD/CAM システムに搭載されているバーチャル咬合器を主題に「明日から使える咬合理論」をサブテーマとし、その使用方法並びに臨床応用を紹介したい。